

<全大阪魚蛋白事業協同組合>

液状魚かすを利用した 肥料の研究開発事業

ー 魚あらのリサイクル肥料を使い、地域特産物のイチジクの育成研究 ー

〈組合概要〉

- 所在地 大阪市平野区平野西 1 丁目 3 番 7 号
ハーモニーテラス平野西 102 号室
- 電話 06-6799-1437
- 設立 昭和 52 年 8 月 20 日
- 業種 廃棄物収集運搬業
- 組合員数 10（平成 29 年 3 月 31 日現在）
- URL <http://www.zenosaka.or.jp>

取組期間

平成 25 年 6 月 10 日～平成 26 年 3 月 31 日

取組みの背景・きっかけ

魚あらを利用した肥料は、栄養価が高いにも関わらず高価な為、コスト面で敬遠されている事が課題である。

現在主流の固形肥料に代わり、液状魚かすを活用した肥料を研究開発する事により品質とコストの両立と、液状魚かすの難点である臭いに対応した施肥技術の開発により、生産者の更なる需要を創出する。

貴重な蛋白資源である魚あらのリサイクル肥料によって地域特産物のイチジクブランドを中長期的に育成する事により、地産地消・地域活性化に貢献すると共にリサイクル率の向上に繋がる。

取組みの内容

研究開発事業

大阪府立環境農林水産総合研究所にて、(1)から(4)に取り組んだ。

- (1) 液状魚かすの無機成分特性
- (2) 液状魚かすの施用による臭気発生状況調査と土壌深層施肥による臭気軽減効果
- (3) 液状魚かすに含まれる有機窒素の土壌使用による無機化動態把握
- (4) 液状魚かすの施用によるイチジク生育促進効果

実施成果（平成 29 年 3 月 31 日現在）

- ・無機化特性調査から、液状魚かすは窒素主体の成分組成であることが判明した。
- ・土壌かん注器による地中への施用を想定した臭気軽減効果試験を実施。土壌深層施用による臭気軽減効果が明らかとなった。
- ・施用位置が深くなるほど無機化が遅れる傾向が認められ、土壌かん注による施用は臭気対策だけでなく、無駄の

少ない肥料の施用という観点からも有効であると考えられる。

- ・ 液状魚かすの施用によるイチジクの生長量は、他の肥料（化学液体肥料、有機液体肥料、慣行肥料）と比べてやや劣る傾向が認められたが、有意な差ではなかった。

【26年度】

- ・ フィールド試験を通じて土壌かん注器の改良を行った。
- ・ 液状魚かすの肥料化に向けては、数量の安定供給に課題を残す。

【27年度】

- ・ 魚あらの数量の減量に伴い、液肥の数量確保が今後の課題。

【28年度】

- ・ 昨年度よりも、さらに魚あらの数量が減量。液肥の数量確保が益々難しくなると思われる。その中で、どのように数量を確保していくのかが今後の課題。